



カンボジアの子どもたちに教育を

2010年7月 No. 34

## カンボジア便り

### 教科書プログラムなどの支援の近況

ルセイサン小学校での教科書プログラムの成果をさまざまな形で確認し、今年に入ってから近隣8校への教科書支援拡大を検討しています。現地のリテイさんを通じて、各校の校長と面談を行い、現在、不足教科書数の集計を行っている段階です。写真は8校の小学校の内の一校で撮影した子どもたちの写真ですが、カンボジアの教科書の実情を示した象徴的な写真といえます。一見すると多くの子どもたちが教科書を持っているように見えるかもしれませんが、実際には生徒一人あたり4教科4冊の教科書を持っているのが通常であるところ、多くの子どもが1冊か2冊しか持っていません。それらの教科書を3~4人で共有しているのが現状です。また、手を上げている子ども(写真の写りが良くありませんが5人います)は1冊も教科書を持っていない子どもです。(写真の中で机の上にあるのは教科書ではなくノートです)支援前のルセイサン・

### ～目次～

カンボジアだより	
教科書プログラムなどの支援の近況	1
通園バス終了と園児数増加への施策	2
カンボジアの教科書支給の仕組みと教科書支援の効果的方法	3
お便り	
ビビンの会	4
自分にできることから	5
スタッフ紹介	
事務連絡	6



ワットハー小学校や、他の近隣校も状況は全く同じであり、当会としては、今後一層教科書プログラムを拡大していくことによって状況の改善に貢献したいと考えています。

一方で、課題も見えてきました。先に支援を開始したルセイサン小学校で、学期の終了に向けて、何冊の

教科書が来年度においても使用可能な状況で回収できるか集計してもらったところ、519冊支給した教科書の内、紛失・破損により使用不可の教科書数が119冊(割合にして23%)に上りました。特に低学年での紛失・破損の割合が高く、1・2年生では36%が使用不可となっています。

当初からある程度の紛失・破損を想定しつつも、ルセイサン、ワットハーの例を元に、初年度 1 校あたり 500 ドル程度で教科書を完全に補充することができ、2 年目以降は教科書再利用により出費を大幅に抑えられるという想定をしておりました。今回、教科書の損耗率が 20% に上ることが分かってきましたので、今後の支援対象校数は当初想定ほどには増やせない可能性が出てきました。そのような状況の中、より支援の幅を広げていく為にも、教科書管理についてしっかりと対策を打ち出し、この損耗率を下げる努力が重要であるといえます。当会では、何よりも現地の人に教科書をしっかりと管理することについて、参画意識を持ってもらうことが必要だと考えています。

これらの状況を踏まえ、7 月に入ってから 8 校の校長全員とルセイサン小学校校長も含めて、全体の会合を持ち、教科書を長持ちさせる為の方策や日韓アジア基金への支援後の経過報告などについて議論してもらいました。結果として、各校が限られた予算の中から教科書のカバーを購入すること、子どもたちに教科書を大切に扱うよう継続的に指導していくこと、支援の成果や教科書の管理状況について四半期に 1 度日韓アジア基金に報告すること、などが決まり、ルセイサン、ワットハー両校から始まった教科書プログラムも、現地が自発的に関与する仕組みの第一歩が築けたものと前向きに捉えています。これに限らず、教科書プログラムの拡大に向けて、教科書回収率の向上や支援成果の継続的な把握に努め、より支援の効用を高めていけるよう当会として知恵を絞っていきたいと思います。

## 通園バス終了と園児数増加への施策

教科書プログラムと並行して昨年 11 月から試験的に実施しておりました、ルセイサン幼稚園への通園バス支援ですが、今年度を以て終了することを決定しました。支援終了を決定した大きな要因は、月額 230 ドルという費用に対して得られる成果が教科書プログラムに比べると十分ではないと判断したためです。大まかな計算では、2 ヶ月間バスを提供する金額で、小学校 1 校に対して教科書を支援できることとなります。上述の通り、教科書プログラムの支援先を今後増やしていくこと、また、教科書支援による教育現場での成果が大きいことが確認されていること、を考えると、大変残念ではありますが、通園バスを継続するよりも教科書プログラムの可能性を追求した方がより多くの成果が得られるという結論に至りました。一方、試験的な試みではありましたが、通園バスにも一定の成果が見られました。昨年度は継続的に幼稚園に来る園児の数が 15 人程度であったのが、最近では 35 人程度にまで増加しています。ルセイサンの校長によれば、通園バスをきっかけに、親たちの間で子どもを幼稚園に行かせることについて意識改革が進んでおり、来年度の園児数も昨年度に比べて多くなるのではないかと期待されています。当会としてもバスに代わる支援の提案を行うと同時に、現地からも色々とアイデアを出してもらおうよう働きかけており、ルセイサン幼稚園の園児数増加に向けて継続的に取り組んでいく考えであります。（市井）

# カンボジアの教科書支給の仕組みと教科書支援の効果的方法

## —シャンティからの助言

社団法人シャンティ国際ボランティア会は、難民キャンプ時代から30年間、子ども向けの図書館活動を中心にカンボジアの支援をなさっており、現在ではラオス・タイ・ミャンマー・アフガニスタンでも活動されています。当会の今後の教科書支援活動の参考のために、国内事業課長の鎌倉幸子さんのお話をうかがいました。鎌倉さんは、1997年から10年間シャンティのカンボジア駐在員として活躍され、クメール語もお上手で現地の状況に精通していらっしゃいます。

### 1. カンボジアの教科書支給の仕組みと生徒の進級状況

教科書支給の仕組み：1年間の貸出・回収方式。生徒個人の所有ではない

回収教科書の再使用可能率 85% 不足分の再支給については不明

6年生まで進級できる生徒の割合 53%(つまり47%は途中退学してしまう)

学校別教師用指導要綱の支給状況 55%(残り45%の学校には支給されていない)

### 2. 教科書支援について頂いた助言

シャンティの図書館活動が一つのクラスから始まり、学校→郡→県と拡がり、今では教育省の教員養成課程に取り入れられているという経過から考えると、まず教科書が100%あるモデル校を作り、プノンペン市教育局にプログラムの評価を依頼し効果を認めて貰えば、教科書支給が大事であるという認識が増し、市全体あるいは国全体の支給状況が改善されるのではないかと考えます。

### 3. 当会の対応

リティ氏とも相談し、積極的に検討したいと考えています。(大澤)

## お便り

### 賛助会員 工藤早苗 在ニュージーランド

つい先日、5月号のニュースレターを受け取りました。いつもいつも、カバーレターに皆さんで一筆添えて下さり、こうして1枚1枚書いていくのも容易なことではないでしょうにと、本当に有難く思っています。

教科書支援活動が予想以上に素晴らしい結果をもたらしているとのこと、嬉しいですね。自分が学校に通っていたときには自分の教科書があるのは当たり前である、というか、むしろそうでないことなど考えもつきませんでした。しかし実際に「そうではない」状況にいる子どもたちが大勢いるわけで、自分の教科書があるということがどんなに恵まれたことなのか、そしてそんな些細なと思われたことがどんなに子どもたちの学習意欲、学習効果に貢献するのか、思い知らされました。今後も、日韓アジア基金がこのような有意義な活動を展開していかれるよう、心から願っております。皆様有難うございます！

こちらオークランドは、今は真冬、といっても東京の真冬ほど気温は下がらず、雨がちなのが鬱陶しいですが、比較的過ごしやすいかと思えます。東京・横浜辺りは大分蒸し暑くなってきているようですが、どうぞお身体に気をつけて元気にお過ごしください。

## グループリーダーとして参加したビビンの会

樋山 浩平（会社員）

ビビンの会への参加は今回で4回目ですが、7月10日は初めてスタッフの立場で参加させて頂きました。今回スタッフとして関わったのは、これまでの参加者宛のメールで「グループリーダーになりませんか？」というお誘いがあったため、今回は逆の立場で関わってみようとふと思った次第です。

ビビンの会自体は14時から始まりますが、当然スタッフとなると午前中には来ていろいろ準備する必要があります。会場づくりや、案内版の掲示、プログラムで使用する物品の準備など、自分がかつて参加者として楽しめた背景には、こうしたスタッフの方のいろいろ準備があつてこそ、成り立っていたんだな、と改めて感じました。



ディスカッションの発表を熱心に聞いています

他己紹介や、テーマを決めたグループディスカッションなど、ビビンの会でやることは毎回それほど変わらないのですが、グループのメンバーはもちろん毎回違うので、参加するたびに新しい発見があります。

スタッフとして参加するため、今度はグループを盛り上げ参加者の皆さんに楽しんで頂くというマインドも必要になってきます。どのようにすれば楽しんで頂けるのか？最初は不安な気持ちもありました。自分が一般参加者だったときに何故楽しかったのか？を思いめぐらしながら、グループの皆が楽しく話しあえるように、その場を作ろうと工夫しました。常連の方に盛り上げて頂いたり、初参加の方になるべく多く発言してもらうために話を振るなど、参加者がそれぞれ楽しんで頂けること、そしてなるべく一人でも多くの人に話す機会を持ってもらうことを念頭に置きました。

グループディスカッションも恋愛についての日韓の文化の違いを話したり、ソウル出身とプサン出身の方がいたため、それぞれのデートスポット、少し話が外れましたが、プサン弁での女性の誘い方など、ユニークな話題を織り交ぜながら、とても盛り上がって、皆で楽しく日韓の文化の違いをディスカッションできたと思っております。

自分自身が何より楽しんでしまいましたし、参加者の皆さんにもそれなりに楽しんで頂けたと思っております。何回参加しても本当に新しい発見や、新しい友達ができて、本当に有意義な会だと思っております。

自分自身の体験では、ビビンの会で出会った韓国人の友達と、会の後でも何回か会い、一緒に浅草に行ったり、新大久保の韓国料理を食べたりして、その友達が韓国に帰ったため、今年の3月に彼に会いに行ったりもしました。

そんな出会いがあるのも、またビビンの会の魅力だと思っております。

## 自分にできることから

### ーニュースレター発送作業に参加して

原口彩（会社員）

昨年の夏初めてカンボジアに旅行したことがきっかけで、ボランティアとして日韓アジア基金の活動に参加するようになりました。毎回の活動はもちろん、スタッフやボランティアの皆さんとお話しすることも楽しみの一つになっています。特に、普段あまり接する機会のない学生さんの志の高さにはただただ驚かされるばかりで、自分のことで頭がいっぱいだった自身の学生時代を省みたり……。5月のニュースレターの発送作業でも、素敵な出会いに恵まれました。自己紹介は、人柄の伝わる個性的なエピソードばかりで大変面白く、参加者同士がうちとけるきっかけとなりました。その後の作業でも、支援して下さる方へ綴る言葉に込められたそれぞれの熱い思いがその場にいるだけで感じられ、またしてもよい刺激を受けました。こういった一つ一つの活動が、カンボジアの子どもたちが教育を受ける機会へと繋がっていることを実感し、私自身も学ぶことの多い1日となりました。

夏になったせいか、とても暑かったカンボジアのことをよく思い出します。カンボジアで一カ月暮らすのに必要な金額と、シェムリアップの豪華なホテルの一泊の宿泊代がほぼ同じだということ。「お金を貯めていつか日本に行ってみたい」と話していた同い年の現地のガイドさんと、少し働いたら行きたい場所に行くことができる私の“お金を貯める”重みの違い。日本でのらりくらりと生きてきた私にはとてもショックなことでした。時差わずか2時間の日本とカンボジア。地雷や貧困などカンボジアが抱えている問題は、日本のすぐ近くで起こっていることです。もっとカンボジアを知り、どんな小さなことでも自分にできることをこれからも続けていきたいと思えます。

## スタッフ紹介

### 会社役員 鮎川宏樹（いながわひろき）

2009年度のグローバルフェスタに参加し、数多くのNPO/NGOが並ぶ中で、日韓アジア基金という響きとスタッフの方のカンボジアでの活動に関する熱心な説明に多少なりとも引っかかりを感じ、後日問い合わせし、改めて説明を聞いた後に活動に参加することになりました。

普段、厳しい競争環境にあるビジネスの世界に身を投じている中で、経済性と社会性の両立に関心があり、その両方が噛み合わないとは持続可能な社会環境が作れないと感じています。

日韓アジア基金が取り組む途上国での教育支援は、世界中の全ての人々が貧困から脱し自立していく機会を得る為に必要不可欠なことであり、現時点での活動範囲は限定的ではありますが、試行錯誤の上で得られた成功モデルが今後より幅広く展開できる可能性が十分にあると考えています。私個人としても、仕事で培った経験を少しでも途上国を含む社会に活かし、1人でも多くの子供達の笑顔が増えることを願っています。



## 役員異動のお報せ

6月19日の理事会を以て禹 守根・千葉 眞衣子・高橋 政行・松田 啓志の各氏が理事を退任され、新たに大町 卓也氏が理事に就任されました。

## 平成21年度総会及びビビンの会のお知らせ

場所 東京千石 アジア文化会館

総会 9月25日(土) 13時～14時にアジア文化会館にて開催します。

ビビンの会 14時半～17時半

参加をご希望の方は、このページ下部の「お問い合わせ先」にご連絡下さい。

## 当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方(敬称略・順不同)

5月8日 ニュースレター33号 発送作業

眞田美由希・佐藤愛子・今井晶子・林歌子・原口彩・北村宏大・大沼亨・戸村香理・仁科有理

7月10日 第13回ビビンの会・グループリーダー

秋山 卓澄・小森 新・高橋 篤子・バンヒョナ・樋山 浩平・ヘンリー ツァン・間崎 愛美

2010年4月30日～7月19日に会費・ご寄付を下さった方 敬称略・五十音順

油谷 友加	加藤 郁雄	合田 稔	並木 陽子	堀内 和子	矢崎 芽生	若宮 康夫
乾 寿夫	金澤 潤子	桜井 靖子	波多野淑子	松井ふみ子	湯田 朋子	
内尾亜津子	唐澤 一登	柴田 義之	藤井 幸子	松田 明美	吉崎 玲子	
大澤 龍	韓 裕華	瀧口 利章	藤井 昌子	松本 博一	吉村 悦子	
小原 勝子	神戸 博子	塚本美和子	藤川 祐一	宮本 直実	米田 容子	
加来 明子	菊池 貞子	中村 節子	堀内 和子	村松 悦子	李 香	

## ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)

賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)

法人会員:年会費1口10万円

ご寄付:2,000円以上おいくらでも

## <郵便振替口座>

口座番号 00180-2-25153

口座名 日韓アジア基金

・活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます。

・賛助会員:定期的にご支援頂ける方。

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

## <お問い合わせ先> (日本語でお願いします)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内

Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)

Eメール: [jkaf@ml.infoseek.co.jp](mailto:jkaf@ml.infoseek.co.jp)

HP: 検索サイトで「日韓アジア基金」で検索なさってください。

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也